

看護大学生が抱く高齢者イメージ —老年看護学臨地実習前調査—

栗山 真由美, 上仲 久, 宇城 靖子

看護学部看護学科成人・老年看護学講座

看護大学生の抱く高齢者イメージを明らかにすること, また, 老年看護援助論, 老年看護臨地実習を展開するにあたり, 老年看護臨地実習前に学生が高齢者をどのように捉えているのかを把握することを目的に SD 法を用いた質問紙調査を実施した. 結果, ①設定した 23 項目のうち, 11 項目が肯定的評価であった. 肯定的評価項目の中では, 『やさしいー厳しい』が 5.7 点で最も高かった. ②設定した 23 項目のうち, 5 項目が否定的評価であった. 否定的評価項目の中では, 『小さいー大きい』が 2.8 点で最も低かった. ③このことから, 看護大学生は肯定的に捉えているが, 『温和性』など, 精神的側面を高く評価していると示唆された. 大学での授業や実習を通して高齢者に対する質の高い知識や体験を提供することが看護大学生の高齢者イメージを形成する上で重要であることが示唆された. 以上より, 老年看護領域の講義や演習が負の体験とならないように学習の意味づけをする必要がある.

地域住民の主観的健康感及び生活満足度と健康関連因子の関連 : 農山村地域と新興住宅地域の比較検討

佐藤 裕見子

看護学部

本研究の目的は, 社会的環境が異なる農山村地域と新興住宅地域において, 地域住民の主観的健康感及び生活満足度に影響を及ぼす健康関連因子について明らかにすることである.

京都府 A 市において農山村地域及び新興住宅地域の特定健診受診者 797 人 (40 歳~74 歳) のうち調査に協力が得られた有効回答者 411 人を分析対象者とした. 主観的健康感及び生活満足度を目的変数とし, 生活習慣病因子及び生活環境因子, QOL 因子を説明変数とする多変量解析を用いて地域別に検討した.

全体では, 主観的健康感には, HbA_{1c}, 運動習慣, 医療依存や痛みによる制限, 仕事する能力など身体的な要因の関与が示唆された. 自分の容姿に満足するなど心理的要因も直接関与していることが示唆された. 生活満足度には, 地域が好きでないことや畑仕事をするなど生活環境因子及び生活が楽しいことや必要な物が買える経済など心理・社会的因子の関与が示唆された. 主観的健康感と生活満足度は相関していた. 睡眠障害及び生活でのストレスが主観的健康感のみならず生活満足度に影響を及ぼす大きな要因であり, 生活のストレスの背景には住んでいる地域への愛着, 地域の助け合いや要介護者の有無が関与していることが示唆された.

地域別の比較では, 農山村地域は近所付き合いや近所の助け合いなど地域レベルの因子が, 新興住宅地域は畑仕事をするなど個人レベルの因子が生活満足度に関与することが示唆された. このことから, 住んでいる地域の違いにより生活満足度に影響を及ぼす健康関連因子が異なることが示唆された.